

企業ニュース 日本触媒

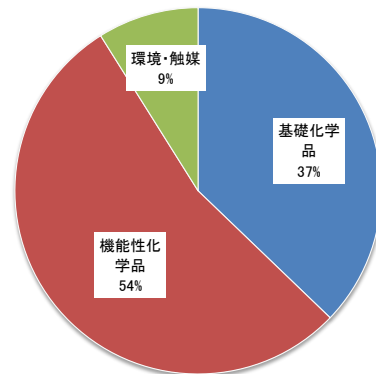
(東証1部 : 4114) <http://www.shokubai.co.jp/>

作成者: 兵藤三郎

アクリル酸から一貫製造するSAP最大手メーカー

◇18.3期売上高構成比

1941年、フサメ合成化学工業として設立、日本で初めて無水フタル酸の工業化に成功した中堅化学メーカー。1949年に日本触媒化学工業に社名変更、1991年に現社名に改称した。エチレンやプロピレンなどを原料に酸化エチレン、アクリル酸などの基礎化学品、およびそれらの誘導品（機能性化学品）の製造などを行っている。アクリル酸及び、アクリル酸を原料とした高吸水性樹脂（SAP）に強みを持つ。SAPは紙おむつなどに用いられ、その世界需要は約290万トン/年（2018年当社推定）。新興国の経済発展や人口増加により、中期的に年5-7%の成長が予想される製品で、現在当社は81万トン/年の生産能力を保有するトップメーカー。高杉良氏「炎の経営者」は当社2代目社長（実質的な創業者）八谷泰造がモデルの経済小説。



(出所) 日本触媒資料よりCAM作成

中期的なSAPの業績けん引を期待

19.3期・第2四半期累計（4-9月）の連結業績は売上高が1,774億円、前年同期比12%増、営業利益が131億円、同7%減。原料価格上昇に伴う販売価格の修正、販売数量増などで増収。利益面ではスプレッドの縮小により減益となった。5月8日発表の期初予想からは機能性化学品の上振れなどで超過達成となった。販管費削減も利益貢献した。

19.3期連結業績の会社計画は、売上高が3,700億円、前期比15%増、営業利益が260億円、同3%減。ナフサ価格の上昇によるスプレッドの縮小を見込み、基礎化学品の営業利益計画を引き下げ、営業利益を期初計画から10億円下方修正した（下期計画は21億円の下方修正）。足元のナフサ市況は原油価格の下落影響などにより想定水準（58,000円/k1）を下回って推移しており、計画値は保守的で、一貫生産メーカーの強みにも期待したい。中期的にも堅調な需要拡大が継続するSAPが業績のけん引役となろう。原料のアクリル酸はベルギーでの10万トン/年増産（増設済み）に加え、インドネシアでの増産を計画している（10万トン/年増産、21年11月商業運転開始予定）。

[株価動向・投資判断]

短期的な業績は市況影響を受けようが、中期的には堅調なSAPの需要にけん引された業績拡大が期待できる銘柄であろう。PERは11倍台、株価水準には割高感は乏しい。

<4114 日触媒 業績：日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
17.3	293,970 (▲9)	21,151 (▲32)	24,664 (▲28)	19,361 (▲26)	478.4	150.00
18.3	322,801 (10)	26,727 (26)	32,293 (31)	24,280 (25)	608.8	160.00
19.3 予	370,000 (15)	26,000 (▲3)	32,500 (1)	24,500 (1)	614.4	160.00



[主要株価指標] (売買単位：100株)	
株価(2018/12/10)	7,190 円
年初来高値(高値日)	8,960 円(18/10/2)
同 安値(安値日)	6,550 円(18/11/6)
予想PER(19.3予)	11.7 倍
1株株主資本(PBR算出用)	8,038.0 円
PBR	0.89 倍
予想配当利回り	2.23 %
(1株当たり配当金160.00円)	
ROE(18.3)	8.1 %
発行済み株式数	4,080 万株